

別 紙

第60回 静岡県公衆衛生研究会 優秀演題ホームページ掲載要旨

分 科 会 名	第 1 分科会	演題番号	107
題 名	県内中小企業従業員を対象とした家庭血圧の測定結果		
所 属	1 静岡県健康増進課 2 静岡社会健康医学大学院大学		
氏 名	1 ○仁藤ほなみ、藤中達哉、櫻井郁巳、太田和宏、島村通子 2 田原康玄		
要 旨 (簡 潔 に)	<p>静岡県の健康寿命は全国比較で上位に位置しているが、平均寿命と大きな格差(男性 7.96歳、女性 10.66歳)があり、標準化死亡比が他県より高い脳血管疾患がその要因であると考えられている。脳血管疾患の主要なリスク因子は高血圧であり、その予防対策や未治療高血圧者への治療介入は健康寿命の延伸において極めて重要である。</p> <p>本県では、令和4年度より脳血管疾患予防として高血圧対策に取り組んでおり、その一つとして血圧測定習慣化促進事業を開始した。県内の5事業所をモデルに、従業員に健康指導及び血圧計を貸与し、保健師等によるフォローアップを行った。</p> <p>その結果、家庭高血圧に該当する者が4割以上おり、40歳未満においても3割近くが家庭高血圧に該当していることが分かった。また、「思っていたより血圧が高かった」と認識した者のうち、約6割が事業終了後も継続して血圧を測定していたことから、当該事業は、自身の血圧値を正しく認識し、家庭での血圧測定習慣化の一助になったと考えられる。</p> <p>一方、継続できなかった者は、「面倒」や「忙しい」「血圧が高くなかった」と回答しており、将来の高血圧及びその先にある脳血管疾患等の予防のためにも、血圧測定の習慣化及び、高血圧に対する理解を深め、高血圧予防の意識づけの重要性が再確認された。</p>		